ワークショップ
「防災パレット in かつしか」
2015

市民と地域をつなぐ防災ワークショップ

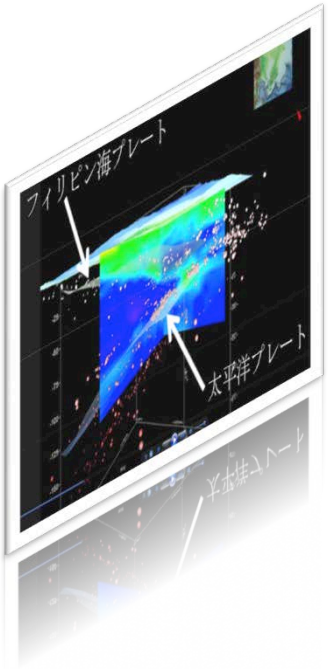
“防災パレット in かつしか”は、
市民と地域と自治体が一緒になって取り組むワークショップです。

1995 年 1 月に兵庫県南部地震（阪神淡路大震災）が起きてから日本列島は地震活動期に入ってきたと言われています。2011 年 3 月には東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）が起き、またしても多くの方々の命が失われました。さらには東南海・南海地震という巨大地震が起こると懸念されています。首都圏では特に首都圏直下で起きる東京湾北部地震が想定されています。このような状況から、小さいお子様をお持ちのご家族の防災を共に考え、備えていくことを目的に、私たちは 2014 年に世田谷で防災のワークショップを開始し、2015 年には葛飾区で防災のワークショップを 3 回開催してきました。

この“防災パレット in かつしか”は、市民と地域の NPO や自治体が一緒になって取り組む防災ワークショップです。NPO 市民科学研究室「市民と防災研究会」と babycom が共催し、葛飾区地域振興部防災課をはじめ、助産師の NPO「さんばはうす葛飾」、防災ラジオを運営する「かつしかエフエム」の方々にご協力をいただき実現することができました。

防災マップや地域危険度マップを活用して
安全な避難の方法を考える

地震防災



地震防災では最悪の場合、葛飾区の 76%が震度 6 強の揺れとなります。被害は最悪の場合、全壊建物 7,400 棟、死者 500 人、避難者 20 万人とされています。地震から身を守るため、まず事前準備として「防災マップ」を読み解きます。地震が起きた後に避難が必要の場合、通常は一時（いっとき）集合場所から指定避難場所へと避難することになっています。この時、お住まいの地域では一時集合場所と避難場所が指定されています。

しかし、私たちのワークショップでは、まず周囲の安全を確認し、自宅に留まることも選択枝として、いざ避難するときも、敢えて 2 箇所以上の一時集合場所と指定避難場所から行き先を選択することを提案しました。

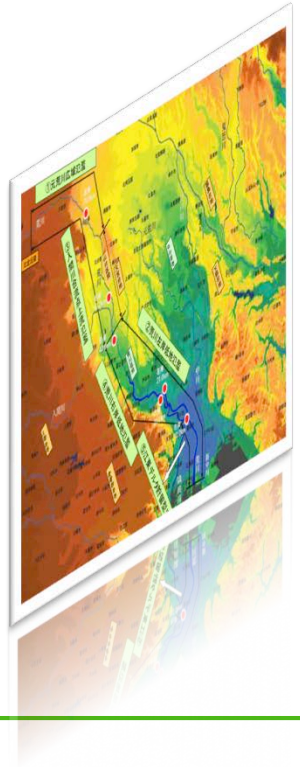
それは葛飾区の地盤が揺れやすく、そのことに起因する建物倒壊と火災発生の危険を考慮するからです。事前に「地域危険度マップ（配布されていないけれど、公表はされている」を活用します。たとえ避難場所が指定されていても、お住まいの場所から指定避難場所までの経路で建物倒壊と火災発生の危険が大きい場合は、入念な注意が必要だからです。地域危険度マップで危険性が高い地域は、特別に周囲を確認しながらの避難することが必要なのです。場合によっては、地域では指定されていない避難場所を選択した方が良いのです。

資料データ

東京湾北部地震
M7.3
深さ20～35km（東京湾北部）

	東京都	葛飾区
震度	6強(70%)	6強(76%)
建物全壊	116,000棟	7,400棟
消失棟数	188,000棟	11,000棟
死者	9,700人	500人
避難者	339万人	20万人

洪水災害



自主的な判断で避難する“命を守るタイムライン”を提案

地震とは別に最近、特に懸念されるのは、水害が増えていることです。100 年に 1 度と言われるような豪雨が各地で頻発しています。各地の水害では“自分は安全である”という安全神話から避難勧告が発表されていても実際には避難されない方が多数おられます。しかし、海抜 0m以下の地域も多く、周囲を河川で囲まれている葛飾区では特に甚大な洪水被害が懸念されます。もし荒川がはん濫すると区内の広い範囲で浸水が起き、全住民の避難が必要になるかもしれません。ある条件でシミュレーションした「荒川氾濫」では、葛飾区で 80%の住民が避難できたとしても死者が 200 人と算定されています。河川のはん濫では避難勧告や避難指示が発表されてから、はん濫までの時間に余裕がないケースもあります。行政からの指示待ちではなく、自主的な判断で避難することが必要と思えます。

私たちは行政からの指示待ちではなく、自主的な判断で避難する“命を守るタイムライン（事前行動計画）”を提案します。それは河川の水位を注視した方法です。大雨注意報や洪水注意報が発表された時、あるいは河川の上流域などで大雨が続いていたら、葛飾区の周辺の河川である江戸川、中川・綾瀬川、荒川の“ある水位レベル（＝消防団待機水位）を超えて水位が上昇し続けている状況”を確認して避難準備のシグナルとするものです。NHK 総合チャンネルのデータ放送やスマートフォンで確認できます（いずれもシーズン中、なお、PC では通年確認できます）。一方、自主的な判断で避難することには、避難所が開設されていないなどの不利なこともありますが、いざ避難指示が発表されたときには、葛飾区民数十万人が一斉に区外に避難を迫られ、避難が遅れた場合には、浸水によって生命の危険があります。

ワークショップでは河川毎の洪水ハザードマップの見方や具体的にどの水位観測地点の水位を注視したら良いか、避難どきはいつなのか、さらにある水位レベル（＝はん濫注意水位）になったら、早急に避難することを提案しました。

これらの提案は、基本的に行政のしくみやデータに基づいています。特に奇をてらったことはことではなく、行政のしくみやデータを上手に活用して、小さいお子様をお持ちのご家族に提案させていただいていますが、葛飾区にお住まいの全ての方々にも受け取っていただきたい提案です。

第 1 回
2015 年 6 月 28 日
開催

テーマ：住んでいる場所の災害リスクを知る

ハザードマップの読み解きをとおして
どんな災害が起こりうるかを知り、安全な行動を考える

地震では、東京湾北部地震による被害の概要と防災マップの読み解き、避難時に地域危険度を活用することなどを提案しました。洪水災害では、「荒川氾濫（荒川下流河川事務所作成）」の視聴に引き続き、河川毎の洪水ハザードマップの説明と浸水状況が長期になることなどの話題を提供しました。ワークショップでは、お住まいの家屋の耐震性（昭和 56 年の新耐震基準に適応しているかどうか）をチェックすることや、各河川の洪水ハザードマップによる浸水深さを確認し、参加者の方々それぞれの状況などを話し合い、意見交換を行いました。

ハザードマップでイメージしよう

会場：葛飾区ウイメンズパル
　　3F 会議室
時間：10：00～12：00
参加：大人 14 名/子ども 2 名

ワークショップの流れ

葛飾区の地震と水害を知るレクチャー
東京湾北部地震、大規模洪水、ハザードマップの活用方法など

↓

ハザードマップを活用したグループワーク
安全な避難ルートや避難場所を確認

↓

意見交換とまとめ、質疑応答など

第 2 回
2015 年 9 月 13 日
開催

テーマ：地震のシミュレーション

災害状況イメージトレーニングツールを使って、
地震発生から無事に避難するまでをシミュレーション

東京湾北部地震では葛飾区への津波被害は想定されていませんが、ライフラインの被害復旧では、電力は 7 日、通信は 14 日と比較的に早く復旧しそうです。しかし、上水道、下水道で 30 日、ガスの供給には 60 日もかかるという試算があります。
第 2 回目のワークショップでは、ライフラインの復旧タイムを考慮しながら、防災マップと地域危険度マップを使って避難場所と避難の経路を確認し、地震が起きたことを想定したイメージトレーニングを行いました。

地震から命を守る
イメージトレーニング

会場：葛飾区ウイメンズパル
　　3F 会議室
時間：10：00～12：00
参加：大人 11 名/子ども 4 名

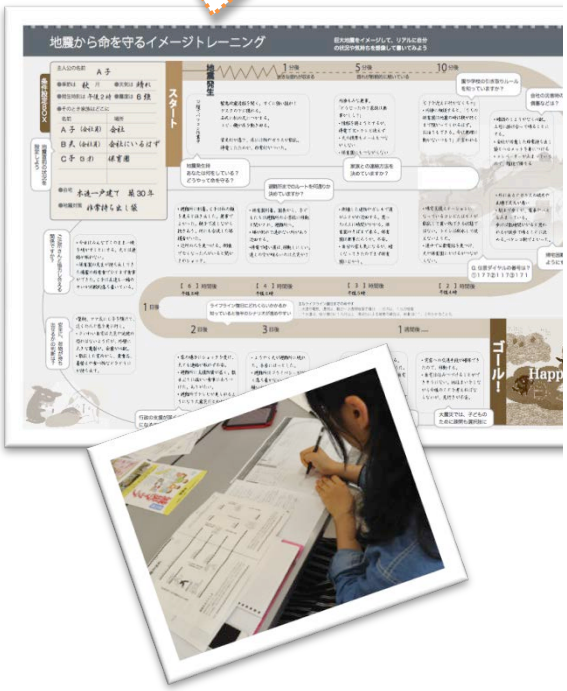
ワークショップの流れ

東京湾北部地震についてのレクチャー
葛飾区の被害想定、避難のポイント、被災後の状況など

“減災絵巻”で地震のイメージトレーニング
参加者一人ひとりが東京湾北部地震を想定した災害物語を作ります

意見交換とまとめ、質疑応答など

“減災絵巻”で、自分を主人公にした災害物語を作ります。
ハッピーエンドの物語なれば防災力がアップ！



第 3 回
2015 年 10 月 25 日
開催

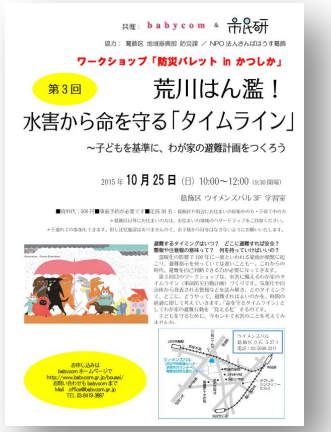
テーマ：水害時の避難を考える

どのタイミングで、どこに、どうやって避難すればいいのか
荒川はん濫を想定した避難行動をイメージ

スーパー台風による高潮と豪雨の悪条件が重なって荒川で洪水が起き、足立区、葛飾区、江戸川区が洪水被害に見舞われ、その時の大規模の洪水被害では住民の避難はどうしたら可能になるのか、というシミュレーションを検討した番組を視聴しました。河川のはん濫では避難勧告や避難指示が発表されてから、はん濫までの時間に余裕がないケースもあり、行政からの指示で住民が一斉に避難することになり、また、いったん洪水になると 2 週間以上も水が引かないなどのことを話題提供しました。このため、行政からの指示待ちではなく、自主的な判断で避難することを念頭に、ワークショップでは、周囲河川の水位観測場所とデータの見方を確認して、自主避難するタイミングなどをイメージトレーニングしました。

荒川はん濫！
水害から命を守る
「タイムライン」

会場：葛飾区ウイメンズパル
　　3F 会議室
時間：10：00～12：00
参加：大人 6 名/子ども 3 名



ワークショップの流れ

フィクションドキュメンタリー「荒川氾濫」視聴

“命を守るタイムライン”の提案
気象庁や自治体からの警報を読み解き、避難行動を考えます

意見交換とまとめ、質疑応答など

参加者から寄せられた声

災害時の情報の見分け方、収集方法が分からない

イメージが少しできました。一時集合場所と避難所が違うこともいまいち理解できていませんでした。自分の足で歩いて改めて確認してみたいと思います。

今まで災害時の行動について考えなければいけないと思っていても手をつけられずにいたので、今回参加することで、考える機会をいただき良かったと思います。地域の災害時のハザードマップでは知らない事が多く勉強になりました。

子連れで避難するタイミングが分からない（子連れは荷物も多いので）

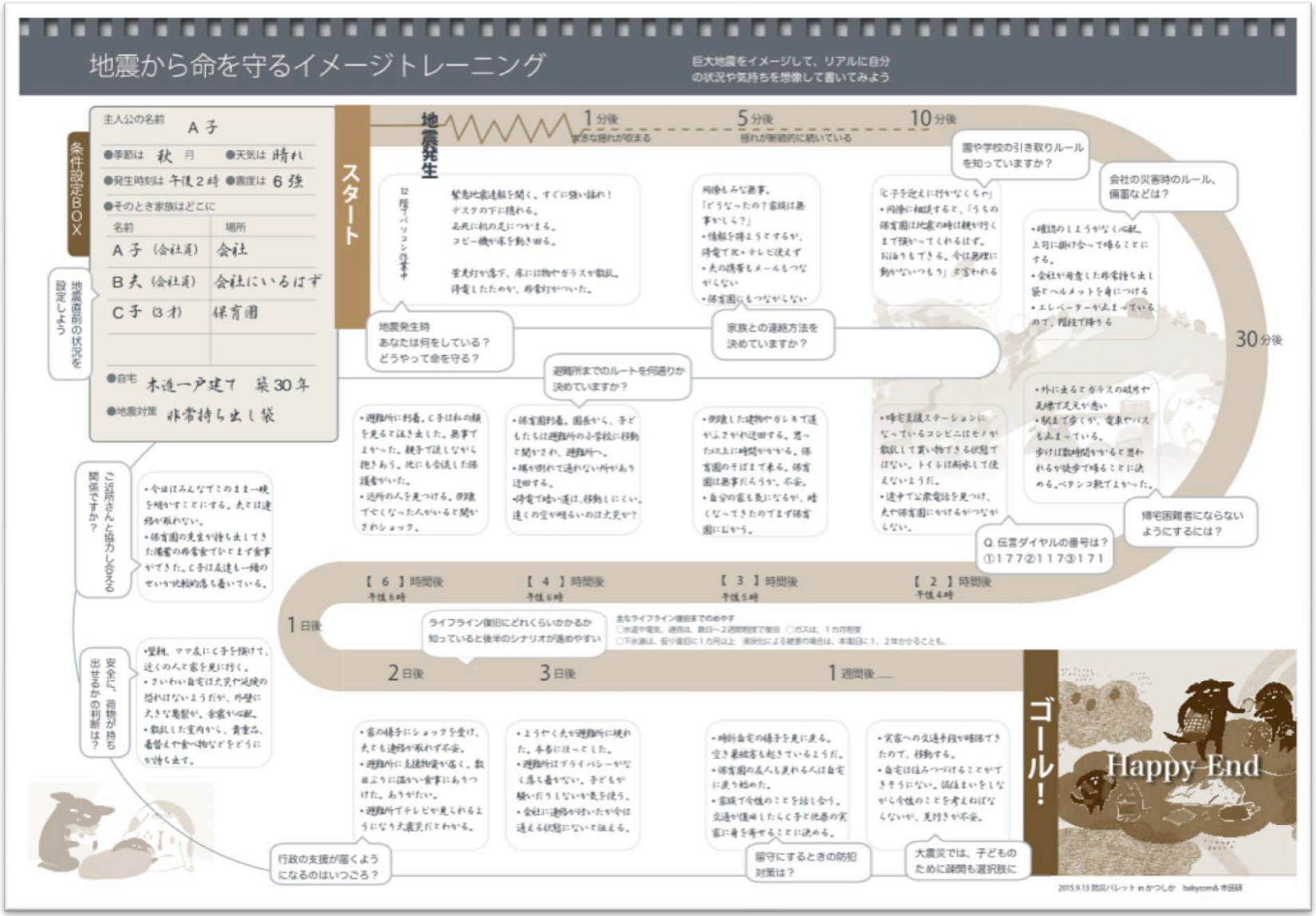
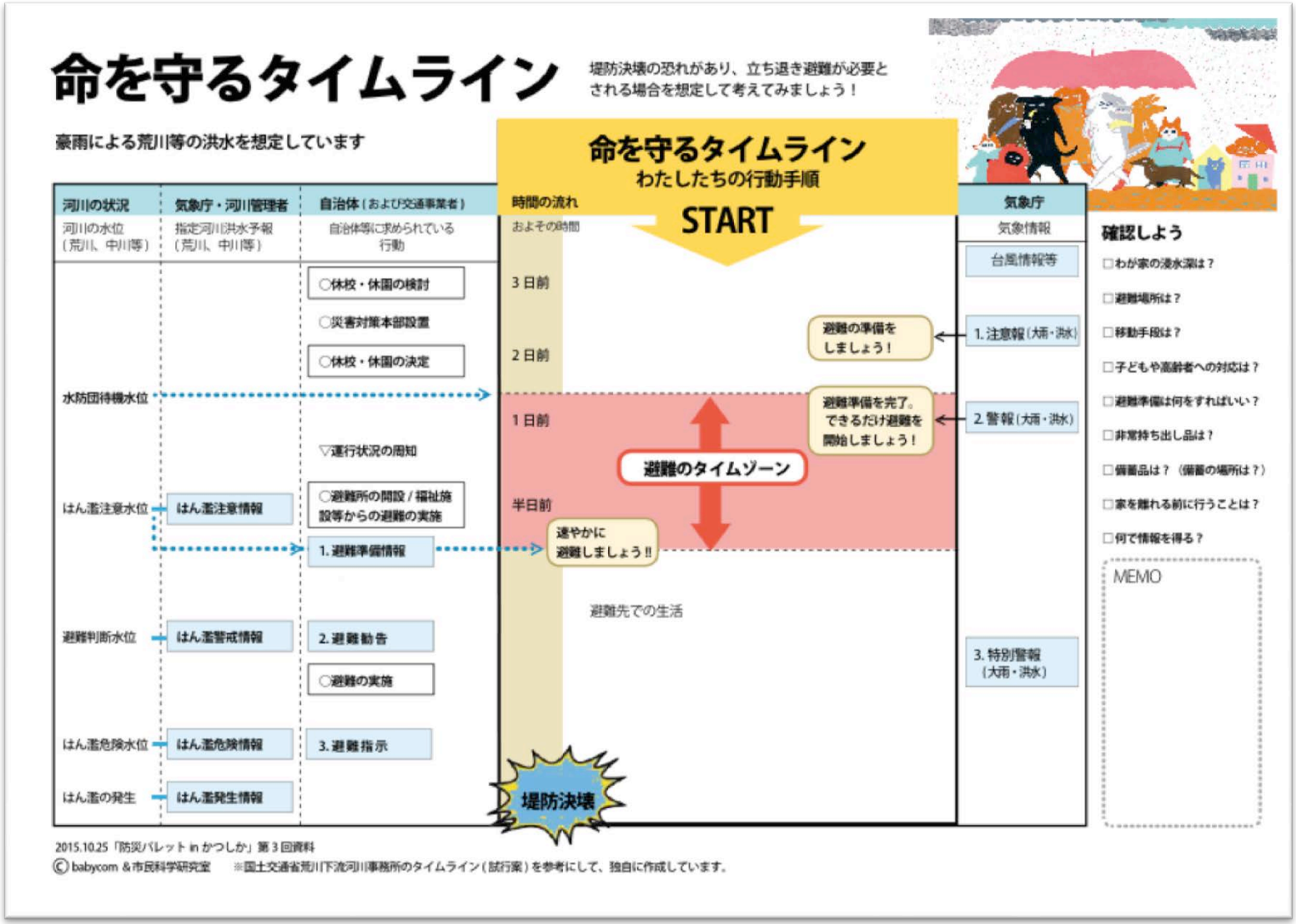
避難のときベビーカーは持っていっても大丈夫？

大地震のときの津波、大火災、規模の違いによる避難の方法、逃げられるのか？

子どもが幼稚園にいるとき災害がおきたら、すぐ迎えにいくべきかどうか。

水害の心配はしていましたが、具体的にどうなるか知らなかったので、地震とは違う対策が必要なことがわかり勉強になりました。

使用したツールの紹介”減災絵巻”



使用したツールの紹介”命を守るタイムライン”